

 議会だより

つなまち

2018年1月20日発行

No.207

12月定例会 12/13～15

議長あいさつ、補正予算	02
議会採決結果、人事	03
一般質問 町政を問う	04～09
委員会レポート	09
平成30年度 建策要望事項	10～11
町民登場 この人に会いました	12



雪国の道を守る除雪隊

津南町議会

検索 

町のホームページでも議会だよりをご覧になれます。
発行：新潟県津南町議会 責任者：議長 草津 進

町民に寄り添う議会に

津南町議会議長 草津 進

明けましておめでとうございます。お健やかに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、7月の九州北部豪雨を始め、台風などによる大雨被害が全国で発生しました。尊い命を落とされた方々のご冥福をお祈りするとともに、被害にあわれた方々、被災された方々には心よりお見舞い申し上げます。

津南町におきましては、2年連続の小雪で最高積雪は2mに届かず、4月上旬には消雪となり例年よりも早く春作業がスタートしました。しかし、春先の低温、夏場の長雨、台風などの影響により、水稲は一等米比率が50%台、畑作も品目によっては近年にない減収となりました。

町政関係では、平成27年度に策定した「津南町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の中間年となり、地方創生をさらに深化させるため事業展開に取り組んでいます。人口の減少、少子高齢化、過疎化など津南町を取り巻く環境は依然厳しく、病院、ごみ処理、公共交通体系などの課題が山積しており、地域社会や町民の生活にも影響を及ぼすため、早急な対応が求められます。

一方、大船町営住宅の建替え、津南小学校の増改築など、長年の懸案事項に取り組むことができました。さらに、スカイランタンを中心とした津南雪まつり、栄村と連携して取り組む苗場山麓ジオパーク、秋山郷を中心とした周遊観光など、津南の地域資源を活用しながら交流人口の増加が図られていることは誠に喜ばしいことです。

議会といたしましては、津南町議会の活性化を図るため、議長と副議長の任期を申し合わせで2年とし、昨年11月に議長、副議長選挙を行いました。再任されたことにより、議長の重責を引き続き果たしてまいり所存でございます。

また、津南町の更なる発展と魅力あるふるさと津南を築き上げることを目指し、各種施策に今後とも積極的に努力をしていきます。

今年一年間、より一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

平成29年第4回議会定例会は、12月13日から15日までの3日間の会期で開かれました。10人が一般質問に立ち、人権擁護委員の推薦、教育委員会委員・固定資産評価審査委員会委員の選任同意、専決処分、補正予算を賛成多数で可決し、定例会を閉会しました。

平成29年第4回定例議会

主な補正予算

一般会計

補正額 4, 127万円
総額 71億6, 703万円

(主な内容)

歳入

公共事業等債増(正面ヶ原用排水施設等) 2, 300万円
前年度繰越金増 1, 900万円

歳出

街灯整備支援事業補助金増 154万円
身体障害者補装具支給費増 105万円
健康増進費増(クアハウス津南休業補償料) 145万円
病院整備費増 220万円

負担金増

津南町定住促進助成事業 2, 563万円
補助金増 260万円

津南町空き家改修事業

補助金増 50万円

特別会計

国民健康保険特別会計

補正額 2, 230万円
総額 12億8, 113万円
支払基金交付金精算償還金増
後期高齢者医療特別会計

補正額 12万円
総額 1億1, 377万円

介護保険特別会計

補正額 51万円
総額 19億3, 710万円

津南町病院事業会計

資本的支出 441万円
補正額増 441万円

総額 7, 929万円

低圧分電盤取替工事

モニター送信機購入
眼底カメラビデオプリンター購入

平成29年12月 議会採決結果

議案番号	件名	表決状況												採決結果
		半戸 義昭	村山 道明	石田 タマエ	風巻 光明	恩田 稔	桑原 洋子	中山 弘	津端 眞一	大平 謙一	河田 強一	藤ノ木 浩子	吉野 徹	
承認第4号	専決処分の承認について (平成29年度津南町一般会計補正予算(第7号))	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
諮問第2号	人権擁護委員候補者の推薦について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
諮問第3号	人権擁護委員候補者の推薦について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
同意第21号	津南町教育委員会委員任命の同意について	賛成多数で同意												可
同意第22号	津南町固定資産評価審査委員会委員選任の同意について	全員賛成で同意												可
議案第55号	津南町過疎地域自立促進計画の変更について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
議案第56号	平成29年度津南町一般会計補正予算(第8号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
議案第57号	平成29年度津南町国民健康保険特別会計補正予算(第4号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
議案第58号	平成29年度津南町後期高齢者医療特別会計補正予算(第3号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
議案第59号	平成29年度津南町介護保険特別会計補正予算(第3号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
議案第60号	平成29年度津南町病院事業会計補正予算(第3号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可

●採決結果の記載方法 (可=賛成多数で可決等の場合 否=賛成少数で否決等の場合)

●表決状況の記載方法 (議員個々の賛否 : 賛成=○・反対=x・欠席=欠・除斥=除:議長は表決に参加できません)

人事

◆人権擁護委員候補者の推薦

(全員賛成で推薦適任)

山田隆一氏(芦ヶ崎)



駒澤大学仏教学部卒

平成6年7月より曹洞宗龍昌寺

住職

平成15年4月より人権擁護委員

◆人権擁護委員候補者の推薦

(全員賛成で推薦適任)

本山佐利氏(反里)



明治大学商学部卒

平成23年3月 津南町役場 退職

平成28年4月より株式会社竜ヶ窪

温泉勤務

平成24年4月より人権擁護委員

◆津南町教育委員会委員任命の同意

(賛成多数で同意)

丸山直子氏(外丸)



東京女子体育短期大学

保健体育科卒

昭和55年4月より志賀スポーツ勤務

平成25年12月より

津南町教育委員会委員

◆津南町固定資産評価審査委員会

委員選任の同意(全員賛成で同意)

中島芳文氏(大井平)



新潟大学農学部卒

昭和48年4月 新潟県 入庁

平成21年4月

十日町地域振興局農業振興部長

平成22年3月 新潟県 退職

平成26年12月より

津南町固定資産評価審査委員会委員

町政を問う!!!

一般質問(10議員)

1 村山 道明 議員(4ページ)
1. 減収農家支援への予算措置は
2. 土作り対策に支援を

2 風巻 光明 議員(5ページ)
1. 公共交通の再編・整備は
2. 保育園統合がなぜ遅れているのか

3 半戸 義昭 議員(5ページ)
1. 津南農業をどう導くか

4 大平 謙一 議員(6ページ)
1. 津南産米の平成30年対策は

5 中山 弘 議員(6ページ)
1. 高齢者や学生の交通網は
2. 防犯カメラの設置は

6 石田タマエ 議員(7ページ)
1. 路線バス減便への対応は

7 藤ノ木浩子 議員(7ページ)
1. 介護職員の確保は急務では

8 栞原 洋子 議員(8ページ)
1. 厳しい病院運営を県に訴えてきたか
2. 町民の所得向上に期待できることは

9 桑原 悠 議員(8ページ)
1. 安心できる質の高い医療のためには

10 恩田 稔 議員(9ページ)
1. 除雪体制の拡充は
2. 雇用対策は

Tsunan-machi Gikai Dayori 町政を問う!

減収農家支援への予算措置は

町長 平成29年は1等米比率54.1%となった。畑作はアスパラガス、スイートコーン、加工トマトは計画目標の60%の減収で、大変厳しい年となった。農業者に対し、金融機関が緊急資金融資を行う場合、町も利子の一定割合を負担することとし、平成30年度予算化する。

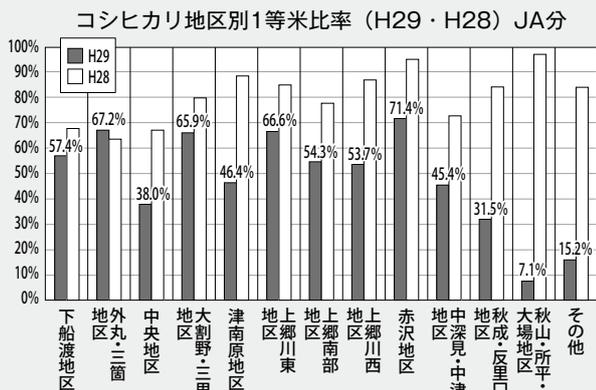
税務町民課長 大場、所平の町税、保険料減免は条例適用は難しい。

農家への具体的な救済は何か

町長 平成29年は異常気象で、農作物減収が甚大で深刻な事態であることが明確となった。救済支援の予算措置をすべきだ。畑作被害も救済が必要だ。また大場、所平は28年が共済冷害被害があり、町災害減免措置を適用できないかどうか。



村山 道明 議員



町長 町認証米を始めて8年経過し、平成23年度から補助制度を創設した。今後は、気象変化の影響を受けにくいおいしい米づくりを進めるためには、土づくりを進めるため。堆肥投入などを含めた土づくり補助制度の創設を平成30年度に検討している。また、現在の認証米制度補助10万円当たり3千円は継続の方向である。

町長 町認証米補助金事業を見直し、近年の気象変動に左右されにくい津南ブランドを守るため土壌改良への助成が必要だがどうか。

町長 町認証米を始めて8年経過し、平成23年度から補助制度を創設した。今後は、気象変化の影響を受けにくいおいしい米づくりを進めるためには、土づくりを進めるため。堆肥投入などを含めた土づくり補助制度の創設を平成30年度に検討している。また、現在の認証米制度補助10万円当たり3千円は継続の方向である。

公共交通の利便性向上を



風巻 光明 議員

公共交通の再編・整備を急げ

問 町の「地域公共交通総合連携計画」で見直しが行われ8年経過した。社会事情が変わり、より地域に密着した交通体系網が求められる。町民の利便性と満足度を上げる再編を急ぐべきでは。

町長 現行の交通体系網は、住民生活と一部で合致しない点が出ている。また平成29年10月に秋山郷方面などの大幅な減便があった。理由は様々あるが、町はそれをカバーするため、関係団体と協議を進め高齢者や生徒など交通弱者の移動手段としてコンパクトで持続可能な交通体系を早急に作りたい。

保育園統合がなぜ遅れているのか



便利の良い交通体系を目指せ

問 保育園整備の答申が出されて3年半経過しているが、まだ最終目標に至っていない。平成29年10月に保護者から統合のアンケート調査が完了しているが、その内容と今後の方向性を早く示すべきでは。

教育長 新保育園建設は候補地と財源問題があり進んでいない。アンケートの結果、保育園統合は上郷、芦ヶ崎とも賛成少数で当面急がないこととした。一方、未満児の入所が増加し、待機児童の発生が危惧される。

問 未満児保育は運営費で大きな負担である。私立化や保育費給付など考えるべきでは。

教育長 働く女性の就労支援からすると公的保育園で預かるのも大事な施策と考える。

Tsunan-machi Gikai Dayori 町政を問う!

津南農業をどう導くか



半戸 義昭 議員

農業立町を掲げる津南町、課題に対し対策を問う

問 平成30年度より減反政策が廃止され、ますます産地間競争が激化されることが予想されるが、勝ち抜くための施策は。

町長 魚沼米も作れば売れるという時代は終わった。津南町認証米はこのような状況を予測し生まれたものであり、農業所得の安定的な確保になつている。今後、食味向上、地力増進のための検討をしていく。

問 後継者不足、担い手不足は深刻である。解消策はあるか。

町長 中山間地域直接支払いなど有効活用し機械の共同利用、集落営農など地域全体での取り組みに期待している。

問 集積や委託の困難な山地の農地を今後どのように維持、



津南魚沼コシヒカリ栽培田

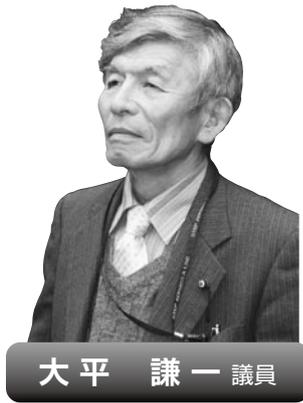
管理をしていくか。喫緊の課題であるが対策は。

町長 山間地の農地の維持、保全是大きな問題として認識している。農家に負担を求めない農地中間管理機構関連農地整備事業の活用を検討することが第一歩と考えている。

問 後継者不足のなか、新規就農者の存在は大きい。しっかりと自立するためのさらなる支援策が必要と思うが。

町長 平成7年から29年までに31組、現在20組の方が就農している。国の農業次世代人材投資事業を活用し、更なる支援をし次世代を担う農業者の育成確保を行っていきたい。

米価の30年対策は



大平 謙一 議員

平成30年産の売り先は
ほぼ予約があるが

問 減反がなくなり米価下落の不安がある。需要と供給のバランスを町長はどのように考えているのか。

町長 平成29年の減反は達成されており自給バランスは保たれている。政府は平成30年産主食用米適正数量を735万トンと決めた。平成29年と同程度の転作によって需給は保たれると考える。

問 国県、JAとの話し合いの経過は。

町長 主食用米は従来の生産数量配分比率にしたがって参考値として示される。農協を含めた町地域農業再生協議会で平成30年産の需給調整方針を決定していく。

問 町認証米制度の継続は。

町長 町認証米制度の継続は必要だ。10ヶ当たり3千円の

奨励金は継続し、10年後を見据えた取り組みとして、たい肥投入を含めた土作りに補助を考えている。

問 畑作への依存が増すが助成を考えているか。

町長 あらゆる制度を活用し支援をしているがさらに有望作物シルクスイート、高リコピンニンジンなど栽培に継続助成が必要である。

問 平成29年産米の品質低下の原因は何か。

町長 予約数に対する出荷率は90%以上であり、指標数量以上の籾数を採っている人が多く、天候不順による登熟不足などが要因であると関係機関は分析している。



作況調査（米原地内）

Tsunan-machi Gikai Dayori 町政を問う!

交通網と事前事故対応を早急に



中山 弘 議員

高齢者や学生の交通網は

問 公共施設や生活用品購入施設は中心街に集中しており、日常生活がままならないが現状で改善の考えは。

町長 生活弱者が今後増えることが予想される。生活の足を確保するのは重要な課題であり、町民生活に合った交通確保対策を進める。

問 高齢者の事故が多発し、免許証返納率が増えているが、対応はどうするか。

町長 返納者のみが補助を受けるのは不公平で疑問の残るところだ。公共交通対策の見直しは着手している。

問 電動シニアカーが増えているが、運転指導と購入補助の考えはあるか。

町長 平成30年度から町でも運転指導を支援したい。助成は現時点では考えていない。

問 冬季の通勤に困難な人に宿舎などの考えは。

町長 高齢者には福祉アパートがあるが、それ以外の町民には冬季宿舎の考えはない。

防犯カメラの設置は

問 ドライブレコーダーや防犯カメラ設置の考えは。

町長 なじよもん等、公共施設にカメラは設置してある。ドライブレコーダーは今年度からスクールバスなどから徐々に取り付けていく。

観光地の入客数を
どう測るか

問 観光地入客数は正確でないが今後の対応は。

町長 観光振興の貴重な調査であり、把握しづらい統計データであるが研究していく。



秋山郷入口のバス停

公共交通再編計画を早期に着手を

路線バス減便への対応は

問 住み続けられる地域の条件として、安心度・利便性が大きな要因である。今後、魚沼圏域での医療再編に対応していくために、また、高齢ドライバーの免許証返納対策に公共交通の担う役割は大きい。このような状況のなか、路線バスが10月に便数が減らされたが、行政はどのような対応をしたのか。また、公共交通対策協議会では、この度の減便に対してどのような協議がされたか。

町長

通勤・通学の時間帯が主に廃止されたが、交渉して何本か復活した。秋山郷の通学に支障が出た方にはご家族から送迎をしていただくようにした。他は対応していないがデマンドタクシーを利用してほしい。デマンドの情報は



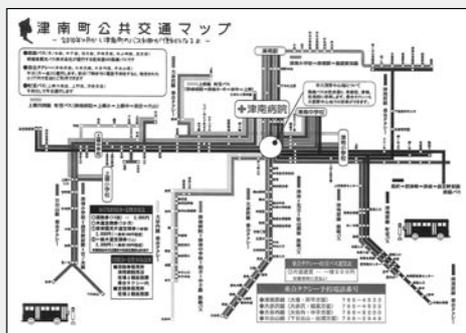
石田 タマエ 議員

公共交通再編計画を 早急に

5年前に出しただけで、周知が不足している。公共交通協議会では協議していない。

問 現在のデマンドの情報を早急に周知してほしい。また、住民生活に大きく影響する公共交通再編計画に早急に着手すべきと考えるが見解を。

町長 保育園・学校なども視野に入れて、乗合タクシーやデマンド交通を総合的に考えて、地域にとって望ましい交通網の見直しを目的とする。再編計画は、原則として期間中はサービスの変更ができないので、慎重に検討し、計画の策定は平成32年度を目途としたい。



全町のデマンド交通マップ

Tsunan-machi Gikai Dayori 町政を問う!

介護職員の確保は急務では

介護事業の存続に 影響



藤ノ木 浩子 議員

問 介護の職場では、「ここ数年新卒者も実習生も来ない」と聞く。長岡市内の介護福祉士養成施設も定員に対する充足率が36・6%、県内全体でも5割を切っているとのことだ。人材確保は介護事業の存続にかかった重要な問題だが、実態を把握しているのか。

町長

介護施設で働く人材確保の重要性、緊急性が高まっている。町内事業所でも大変ご苦労されている現状で、人材が思うように集まらない実態は把握している。

問 新潟県の地域医療介護総合確保基金の活用、提案をしていくべきではないか。

町長

事業所の要望や考えを聴きながら検討していきたい。

問 平成29年度、国は月額1万円相当の処遇改善として、

臨時の介護報酬改定を行ったが、本当に待遇改善となっているのか。

福祉保健課長 事業所から報告を受けているので、賃金は上がっていると確認できる。

問 介護事業所では、外国人技能実習制度も活用し人材確保するというが、どうみているか。

福祉保健課長 一つの方法ではあるが、慎重に検討が必要である。

問 若者が安心して住める町づくりが必要ではないか。

福祉保健課長 人材確保がスムーズにできるよう、事業所とも話をし、基金の活用も含め検討したい。



学生の介護体験

拙速な判断をせず地域医療を守れ



桑原 悠 議員

「厳しい運営を県に訴えてきたか」

問 病院運営審議会は町長の諮問を受け、平成29年12月25日に答申が提出される。県の地域医療構想が示され、魚沼圏域の中でも信濃川流域の津南、十日町地域は雪深い過疎地を多く抱えており、津南病院の役割は大変大きい。経営改善に職員も真剣に取り組み審議会も責任は重い。町長はこの間、厳しい運営と病院が果たす役割について、県福祉保健部とどう相談し、国にどう言うってきたか。

町長 公立病院の運営が厳しい点では、議員と全く認識は同じである。地域医療構想調整会議の中で医師・看護師確保、ハード整備などをしっかりと訴えている。地方交付税措置のさらなる上積みなど国や県、全国自治体病院協議会、



ここが命だ、地元の病院

開設者協議会などに機会あるごとに訴えている。

問 県福祉保健部とはどう相談してきたか。

町長 つまびらかに覚えていないが県には再三再四話している。

「町民の所得向上に期待は」

問 町の農林業総生産額は約47億円、町は6次産業化の推進、ブランド化と販売強化に取り組みとしてきた。しかし総生産額に対して金額はどうか。産業として期待できるか問う。

町長 6次産業化が町内に生まれ育ってきている。

地域振興課長 県全体の集計はされているが、町の総生産額は公表されていない。

Tsunan-machi Gikai Dayori 町政を問う!

安心できる質の高い医療のためには



桑原 悠 議員

「町民が求める医療に応えるには」

問 北信、津南町、十日町市エリアで医療を確保し続けられるかは流動的だ。津南病院は重要な立ち位置にあり、町民が質の高い医療を安定して受けられるには。

町長 津南病院に求められているのは、いわゆる見立て、看取り、予防の医療だと考える。そのためには的確な診断ができる総合診療医の確保、24時間体制の訪問看護、在宅介護の支援が行政に課せられた課題である。

問 そのためには常勤医を増やす必要があるが、医師の海外留学を認める町独自のプログラムを作ると、若い医師には魅力的だ。常勤医になっていただければ組織の活性化にもなり、質の高い医療につながるのでは。

町長 留学中の人件費を町で負担することになるので、今まで考えたことはなかった。

問 住み慣れた地域で、人生の最期を安心して過ごせる体制を加速して作る必要がある。在宅医療と介護の連携をどう本格的に進めるか。

町長 医療と介護の従事者が協議する会を作り、津南病院内に訪問看護ステーションと地域連携室の設置につなげた。今後も協議を重ねる。また十日町圏域内での連携にも努めている。

問 課題である訪問看護の24時間体制はできるか。

病院事務長 それをやるには常勤の内科医がもう1名必要である。



医師にも魅力的な病院へ

町道除雪の要望に対して

除雪体制の拡充は



恩田 稔 議員

問 住民との懇談会に、毎年町道除雪に対しての要望が出る。30年前と比較すれば、格段に良くなっていることは事実であり、感謝もしている。しかし、中心部から遠い集落において、もう少し何とかして欲しいとの声がある。人員を増やし対応できないか。人口減少の歯止め、Uターン、移住・定住を促進するにも一層の拡充が必要ではないか。

町長 除雪の底上げは町行政にとっても大変重要な課題であるが、さらなる財政負担やオペレーターの増員は大変厳しい。

問 近年、介護施設が増え、勤務時間が多様化している。また、製造業でも24時間操業の事業所もある。特に介護施設では女性が多いことなど、帰りの心配をしなくてもいい

ように、夕方の除雪を検討できないか。

建設課長 町の除雪隊と委託業者などとも連携を図り対応していきたい。

雇用対策は

問 津南町の事業所も人材確保に大変苦慮している。施策もU・ターンの推進しているが、地元出身者の就活に情報として届いているか。給料の比較だけではない、町のメッセージを発信することも必要ではないか。

町長 十日町地区雇用協議会と連携し、ハローワークとは違う協議会独自のホームページを開設する。事業所情報ページなどで就活学生に提供できると期待している。



要望の多い町道除雪

Tsunan-machi Gikai Dayori 町政を問う!

委員会レポート

産業建設常任委員会

津南町商工会との懇談会

とき 9月25日(月)

ところ 津南町商工会 会議室

内容 商工会より町商工業の現状と取り組みの説明がありました。特に他市町村の小規模企業に関する条例制定が進んでいる中で、商工会長を中心に、町へ支援の意思表示として条例化の申し入れを行っているが、条例化が進んでいないとの話がありました。

また、インバウンドについて観光客を増やすだけでなく、地域における波及効果を検討していること、「津南丸ごと紹介する事業」をPRする活動の説明もありました。

懇談会を終えて

人口減少問題や、企業の求人情報の提供、観光への取組が町、商工会など全体で繋がっていくように、議会としても検討しなければなりません。(担当 栗原洋子)

津南町建築協議会との懇談会

とき 10月12日(木)

ところ 津南町商工会 会議室

内容 住宅補助事業をはじめプレミアム商品券の発行や防災対策、地元産木材の利用促進策など数多くの課題について積極的な意見交換が行われました。特に町全体への経済効果の高い住宅補助事業は、一度受けた人でも対象になる制度への拡充が求められました。

また、最大の課題である人口減少については、全国多くの自治体で移住・定住施策を進めています。内容も若年世帯、子育て世帯加算など増やす傾向にあり、津南町の積極的な施策を求める意見が出されました。

懇談会を終えて

議会としても近隣市町村を見ながら、積極的に支援策を求めて行きます。(担当 恩田稔)



商工会との懇談会

平成30年度 建築要望事項

来年度の予算編成に向け、諸事業の要望書を町に提出し、11月30日に回答を得ました。主なものは、つぎの通りです。

総文福祉常任委員会

【総務関係】

財源確保について

【要望】 「町公共施設等総合管理計画」に基づき、今後の修繕・更新のための財源確保に努められたい。
【町長】 持続可能な行政運営ができる規模まで縮減を検討していく。将来負担比率に大きな変化がないよう既存施設の修繕・更新を進め、行財政改革により財源確保に努める。

公共交通体系について

【要望】 高齢者が免許証返納した後、の公共交通体系を確保し、優遇制度を構築されたい。

【町長】 十日町市や交通センター等の間で自主返納の支援策について検討している。管内の足並みをそろえて行うことが必要だが、制度の平等性や効果を含め慎重に対応する。



高齢者の交通安全対策を

投票率の向上について

【要望】 高齢化が進んでいる集落に対し、投票所の増設や期日前投票における移動投票所を設置されたい。

【町長】 現在投票所が遠方で高齢化が進んでいる地域に対し、投票日にバス送迎を行っている。選管や明るい選挙推進協議会で投票機会の拡大を検討する。

【福祉保健関係】

介護事業について

【要望】 在宅介護における介護手当の増額と支給方法の改善を図られたい。

【町長】 在宅で心身の障害や高齢者の介護に対する在宅介護手当については、今後も適正な支給に努め、在宅で介護する方を支援していきたい。

【国民健康保険料について】

【要望】 平成30年度より、町から県の広域化に伴い、保険料の被保険者負担の軽減に努められたい。

【町長】 国は30年度から都道府県単位数のために公費投入を行い、ソフトランディングに努めており、国の方向性を見据え、県と一緒に慎重に検討している。

【健康増進について】

【要望】 クアハウス津南のプールが手狭になっており、拡張を計画されたい。

【町長】 源泉湯量が減少していることから、本年度能力アップのポンプ入替工事を予定。その後湯量の状況を見て関係者と協議しプールの拡張について判断したい。



手狭になったクアハウスプールの拡張を

【教育関係】

子育て教育について

【要望】 子育てと仕事を両立させるため、津南病院にて病児・病後児保育を実施されたい。

【町長】 平成29年7月から十日町市の「子育て・健康支援センターちくたく」で病児・病後児保育に取り組んでいる。今後は津南病院の体制も含めた中で検討が必要である。

教育予算の拡充について

【要望】 高校生への通学費の補助制度を創設されたい。特に公共交通の無い地域の生徒については優先的に取組まれたい。

【町長】 現在、十日町高校松之山分校においては、町単独で補助している。他については、財政支出を伴うことから難しい。

【津南病院関係】

在宅医療について

【要望】 訪問診療、訪問看護、訪問リハビリなど在宅医療の整備を行い、積極的な展開を図られたい。

【町長】 在宅医療は今後とも充実させていきたい。経営的には採算をとることが難しい医療サービスであり、当面24時間の在宅療養支援はできないが、利用率を見ながら内容の充実を図っていく。

産業建設常任委員会

【地域振興関係】 農林について

要望 農産物の価格の低迷が危惧される中での苗場山麓基盤整備償還金が農家経営を圧迫している。農地集約に対しても足かせになっているため、償還金軽減策を国に対して引き続き強く要望されたい。

町長 苗場山麓第二地区の償還が始まって16年が経過し、元金の軽減策については大変厳しい状況である。町としては、現在行っている「経営安定対策基盤整備緊急支援事業」について、中魚沼土地改良協会による北陸農政局、新潟県農地部への要望や、農林水産省、財務省に対する中央要望等機会あるごとに継続を強く要望している。

要望 兼業農家に対して直接的な支援策を構築し、小規模基盤整備制度の拡充と補助要件緩和を積極的に図られたい。

町長 兼業農家は津南町農業及び集落維持にとって欠くことのできない経営体であると認識しているが、農業が主たる経営体でない兼業農家への支援策については、公平性や財源等を考慮すると難しいものがある。地域の農地維持、保

全や集落を維持するためにも、広域での組織化や集落営農組織の構築などにより各種補助事業を活用いただきたい。基盤整備事業の制度拡充、緩和については県に対し制度の拡充を継続して強く要望していく。

商工観光について

要望 中津川運動公園に水あそび広場を併設されたい。

町長 現在、国土交通省中津川砂防事務所で行っている中津川床固工群の工事と合わせて、広場整備や既存水辺公園周辺の有効活用について関係機関と連携しながら検討していく。



河岸崩壊（割野上島）

【建設関係】

国・県公共について

要望 信濃川の危険堤防については、信濃川上流圏域河川整備計画に基づき、危険箇所築堤等早期着手を要望する。

町長 圏域の河川整備計画は、水系一貫となつて河川氾濫災害防止又は被害最小化軽減を図る観点から、上下流のバランスを確保し、国直轄編入と合わせて危険箇所築堤護岸河床掘削等の整備について要望を継続していく。

町道について

要望 中深見・堂平線の整備促進を引き続き図られたい。

町長 社会資本整備総合交付金事業の交通安全対策事業で要望している。改良整備に伴う用地のご理解がいただければ、継続的に整備を進めていく。

除雪について

要望 町道の除雪体制を強化し、各集落の要望に対処されたい。

町長 町道除雪体制については、消雪施設（消雪パイプ）の更新や直営での機械除雪路線と委託路線を適切に組み合わせ対応する。集落の要望については状況によるが、適切な除雪ができるよう対応していきたい。

住宅・改修について

要望 U・イターナー者の住宅新築に助成し、町有地の分譲を含め移住しやすい環境づくりを図られたい。

町長 住宅新築に関する助成事業として、克雪すまいづくり支援事業及び県事業のふるさと越後の家づくり事業の推進を図る。分譲を含めた町有地の活用は、保育園・小学校統合整備計画や他の事業計画と合わせて、有効性の高い活用方法を検討したい。なお、グリーン・ツーリズム推進室で、移住・定住者のための定住促進助成事業補助金及び空き家改修事業補助金を制度設計しているところである。



町除雪車



町民登場

この人に会いました…



たき ざわ とも み さん(秋成)
滝 沢 友 美

津南に来て1年4カ月が過ぎました。最初は派遣社員で津南町にやってきた私ですが、当時はこんなに長く津南に住むなんて思ってもいませんでした!!

それまでの津南のイメージは『雪が多い』。だから最初は冬が来る前に新潟市内に帰ろうと思っていました。(笑)

仕事にもだんだん慣れてきて、周りの派遣仲間が津南に残るといふこともあり、勇気を出して冬の津南に残る決断をしました。津南の冬を経験することも自分のステータスになるのではと興味本位の部分もありました。実際の津南の冬は過酷でした。(笑)

毎日坂道で滑っては転び、長靴とスノーボウウェアが私服となりました。でも、テレビの積雪情報で県内積雪量の1位を走り続ける津南町は、ちよつとワクワクし



反里口から秋山郷を望む

ていました☆今日は何メートル積もるのかな!!!除雪車は何時に来るかな!!

そんな私も今年の冬には母になります。子育てに奮闘しながら迎える2回目の津南の冬を懲りずにワクワク待ちわびています。

第1回定例会は2月28日(水)に開会予定です。お気軽に傍聴においでください。

編集後記

Editor's
postscript

この文章は手書きでなく打込んでいます。キーボードがペンの代わりですが便利になったものです。さらにネットワークで編集者全員が「共有」できます。共有は昔から使われている言葉ですが、近年頻繁に聞かれ、車、建物、田畑まで共に使う世の中になってきました。すべてが私有できなくなり空き家や放棄地が増えています。「くれてもらえない」この身震いする時代を開拓した先祖はどう視ているでしょう。寒気を想像する言葉に「北」があります。昨年のお世相漢字は「北」ですが、恐怖では無く共有できる何かを見つけたいものです。(中山)



清水寺